



随想

昔から女の好物とされるのは、「芋・たこ・南瓜・芝居にこんなやく」という通り相場がある。御他聞にもれず皆好きだけども芝居は断然一位である。

いい芝居を観て帰りみちにスイートポテトなんかかきると、世の中の幸せを独り占めしているような気分になる。根が単純なのだろう。いつの頃からか観るばかりでなく書くようになってしまった。自分でも困ったものだと思いがらげのようがない。

商家の育ちで、結婚した相手も商家なので、商い以外の事はすべて邪道だと思いつまされてきた。

生来、本の蟲で本が無ければ生きられないのに、体裁をつくるどころがあり読書癖をつくり、書き癖を隠した。飛鳥のごとく図書館に通い怪人二十面相のごとく仮面を脱ぎ変え、何食わぬ顔で店主主婦と化しては帳簿の下に書物を隠して貧り読むという日常だった。台本作者としての我

が名がばれそうになると、「あれは同姓同名のヒトでよくまちがえられて迷惑しています。」などと云ったりした。

ところが天網恢々というか、なんとつべまか、このたび幸運の神さまはにっこり笑って、その広く温い掌で、すっぽり私を拾いあげてくださった。まさか「福武文化奨励賞」という大

ダメ主婦のひとりごと

やまだ みなこ



それた賞を頂戴できようなんて、夢のまたゆめ。好きなことを好きなようにやってきた嘘つきみなこの成れの果てなのに

「こんなこと有りィ?」。頬をつねると痛いし、飲みのなみだにむせびながら、もう自分をごまかし、人を戸惑わせるのはヤメタと決意した。やくざな主

婦の生きる道は、一路その道をまっしぐらに貫き通すことしかない。「まっしぐら。好きなようにしろ」という同意、承諾を得たようなど、私は奨励賞の意を帯びることに決めた。それは曲解だ「ですと、いえもう遅すぎます」。

私のようなダメ主婦に与えられた「書くことへの市民権」が今、きらきら輝いて光って私は少女のようにドキドキしている。曲がった背を優しく押してくるような賞のありがたさに、深い感謝を捧げずにはいられない。

授賞式の帰途、私はスーパーで自分の時計を初めて買った。(主婦はスーパーで時計を買ったのです。)数字が大きく時間がはっきりわかる。この時計はこれから私の時間を刻むだろう。「自分の時間」を買うように買った時計は、「チ」チと実に正確な音を刻んでいた。

たそがれせまる人生の夕映えの中で、手持ち時間の残り少ないことをしみじみと思つ。これから私に何かできるのか、希望の数を数えるように新しい仕事に思いを描こう、祈りのように思いを大切に抱こう。

福武文化振興財団 贈呈式 第三回福武文化賞・福武文化奨励賞 第六回文化関係助成

六月二十六日、第三回福武文化賞・同奨励賞及び第六回文化関係助成の贈呈式を行いました。

福武文化賞は、県内の文化向上に著しく貢献した個人・団体に贈るもので、伝統的民家を現代に再生する「古民家再生工房」と、国内外で幅広い音楽活動を続けている近藤安介氏が受賞しました。

福武文化奨励賞は、県内の文化向上に今後の貢献が期待される個人・団体に贈るもので、狂言師として積極的な活動をしている田賀屋夙生氏、地域に密着した脚本を手掛けている山田美那子氏、地域の演劇の発展に取り組んでいる「おかやまアートファーム」が受賞しました。

また、意欲的に文化活動を展開している六十四の個人及び団体を対象に、総額約千二百万円助成を行いました。



福武文化賞・同文化奨励賞受賞者と来賓・財団関係者

受賞に寄せて



高木 浩朗

新世紀教育改革元年に、伝統ある福武哲彦教育賞の荣誉に浴しましたことに、私は大きな因縁のようなものを感じていま

「受賞者のことば」の機会を与えていただき「私に対する表彰理由に、井原後月教育センターの開成と『地域の教育遺産を掘る』井原後月の教育に買かれた」の出版を取り上げていただいたこと」に感謝しました。

補足しますと、教育センターは、教師の自主的主体的研究の拠点づくりを目指したものですし、もう一つは、この地域の教育を支え発展させてきた先達の系譜の上に自分があることを自覚し、それを継続発展させる使命と、変革のエネルギーを持つ「史心ある人づくり」(教師論)

平成の教育改革 その成否は現場教師にかかると

中学校で、新学習指導要領が実施される「新世紀教育改革元年」です。(私は、一九四七年昭和の教育改革元年に教師になって

います。) ところが、現実には「ゆとり学力」とか、「教育改革」論と、下「等々、現場教師を含め社会

の目を右往左往させるような論議が渦巻いています。

平成の教育改革、その成否を決めるのは、昭和の改革がそうであったように、私は、現場教師だと信じています。

確信しながら、この渦巻く教育論議の中で、現場は大丈夫かなと、少し心配な面もありました。

ところが、贈呈式の中で「受賞者・助成対象者のことば」を聞いていて、その心配が飛びました。

そのことばの中に、世論に迷わせられないで、子どもたちを見据えた実践が、着実に進められていることが実感できたからです。

英国の宗教詩人ブラウニングの「小さな円を描いて満足するより、大きな円の、その一部である弧になれ」という言葉は、私たち教育にかかわる者、わけでも現場教師が、世界が注目している平成の教育改革という大きな円の一部を担っているという矜持、史心ある教師になる必要を指摘しているのだと思います。

平成14年度

(財) 福武教育振興財団 贈呈式

福武哲彦教育賞・福武教育奨励賞 1団体6個人に荣誉

七月十九日、福武教育振興財団は「平成十四年度福武哲彦教育賞・福武教育奨励賞・教育関係助成贈呈式」を岡山市内のホテルで行いました。

福武総一郎理事長は「大きな変革期を迎え、先生方の責任は今まで以上に重くなりますが、当財団ではより一層のお手伝いができるよう努力していきたいと思ひます。」とあいさつ。

第十六回を迎えた福武哲彦教



受賞者・教育研究助成を受けた方々と来賓・財団関係者

福武教育奨励賞は、家庭科男女共修の実施など将来への道を開き、本年四月、県内で女性初の高等学校長となった高木弘子氏ほか四名に贈られました。教育関係助成では、教育研究助成四十件、図書助成三十七校、英語教員研修助成二十名が選ばれ、助成証書や目録が渡されました。(樽井)